



交通安全大会を開催

今年6月、本町と那須塩原市で、立て続けに2件の交通事故死亡事故が発生しました。

これを受けて、7月13日、町文化センターで「那須塩原警察署管内交通安全大会」を開催し、約700人の住民が参加しました。

大会では、住民の交通安全に対する意識高揚と、より一層の交通徳の向上を図るため「交通事故の現況について」と題し、那須塩原警察署の田島交通総務課長から講話がありました。また、「大道ボリス」に扮した同署戸井田警部補が、歌やクイズを交えて「交通安全ショー」を披露しました。

その後、本町と那須塩原市の小中学生4名が交通安全に関する作文を朗読し、最後は交通事故防止に取り組む決意を新たにするため、那須塩原地区交通安全協会副会長土田陽吉さん(千振)の交通安全宣言によって大会を締めくくりました。



土田陽吉さん(千振)

ドン・パン・ドスン

黒田原小学校 二年

平山 大喜



シートベルトって、まじい。いつもはのびたりちぢたりするの、あの日のスリッパで。ぼくがまえにとび出しそうになったとき、ギョッとかたまって、ぼくをささえてくれました。
とてもさむいおさでした。
「大ちゃん、いくよ。」
「はい。あれ、ゆきがふってるのかな。」
「みぞれたよ。ゆきになってまだいじょうぶ。スタッドレスタイヤだから、だいじょうぶ。シートベルトした。」
「したよ。出ばっ。」
まだほいくん生だったぼくと、お母さんは、おじいちゃんの家へむかいました。
と中の、大きくカーブした下りさかみちでした。お母さんの「アッ。」
というこえのすぐあとに、

ドン、パン、ドスン。スローモーションみたいに見えました。こわすぎて、こえも出ませんでした。

はじめのドン、山にぶつかって着。つぎのパンは、ほんたいがわのガードレールにぶつかって音。さいごのドスは、またほんたいがわの山に、つつこんたき。きつと、三びょうくらいのじかんだったのに、三じかんくらいにながくかれました。

(下キ、下キ、下キ、下キ) ぼくのしんぞうの音しか、聞こえませんでした。そのしんぞうが口からとび出しそうでした。お母さんも、ふるえていました。

お母さんは、かたまっただぼくのシートベルトをはずして、ぼくをかかえて、ブルブルふるえていました。
「いたいところ、ない。どこかぶつけなかった。」
ぼくは、びくりにしたのと、こわかったので、こえがでませんでした。

お父さんが、たすけに来てくれるまで、ぼくの体をしんぼいしながら、二人でふるえていました。もし、ほんたいがわから車が来ていたら、ぼくも、お母さんも、それからほんたいがわの車の人も、たいへんなことになっていたみたいですよ。あのじかん、あのぼ

しょうて、たいこう車が来なかったのは、きせきだと、お父さんが言っていました。

車は、なかせないくらいにこわれてしまったけど、シートベルトのおかげで、ぼくもお母さんも、どこもけがをしませんでした。

そのあと、ずっとぼくは、車にのるのがすごくこわかったです。ゆっくりはしっていて、こわかったです。

どんなに気をつけていても、もしかししたら、またこうゆうじこにあうかもいれませんで。だからぼくは、かならず車がうごくまえにシートベルトをします。
今、元気に小学生になれて、ほんとうによかったです。
(原文のまま)



那須中央中二年三森綾香さんは、通学で毎日使う自転車の交通ルールについて考えた作文を読んできました。